

子牛の屈腱短縮症に対する切腱術

(株)益田大動物診療所

原知也、長崎雄太、嶋田浩紀

足立全、岸本昌也、加藤大介



(株)益田大動物診療所

屈腱短縮症(ナックル)の治療

外固定; 副木・キャスト(一般的だが、長期化すると褥創を生じる)

機能的削蹄、蹄ブロック装着

切腱術(浅指屈腱及び深指屈腱を切腱)



今回切腱術においてさらに**副蹄遠位靱帯**を切断

方法

■ 交雑種去勢子牛

出生後；両前肢の重度のナックルを呈して起立不能となる

1日齢；副木を用いた外固定により起立可能となる

42日齢；別形状の副木を用いた外固定にて整復

70日齢；再度副木による整復



治療が長期化し、褥創を生じ治癒せず

方法

204日齢; 球節の屈曲の改善を目的として

両前肢にて中手骨-骨幹部掌側面から

浅指および深指屈腱の切腱

右前肢外側蹄の屈曲の改善を目的として

繋骨-冠骨掌側面から副蹄遠位靭帯を切断した

方法

術前の状態

両前肢の球節屈曲

右前肢外側蹄の屈曲

手根関節を外側に開くように起立する

蹄尖での負重



切腱術

鎮静下で中手骨-骨幹部掌側面から浅指屈腱及び深指屈腱を切腱する。(両前肢)



浅指屈腱



深指屈腱

切断術

両前肢球節の屈曲は改善したが右前肢外側蹄においては屈曲し伸展に至らず、**副蹄遠位靭帯**の緊縮を認めた。



右前肢外側蹄の屈曲改善を目的として**副蹄遠位靭帯**を切断した。

切断術

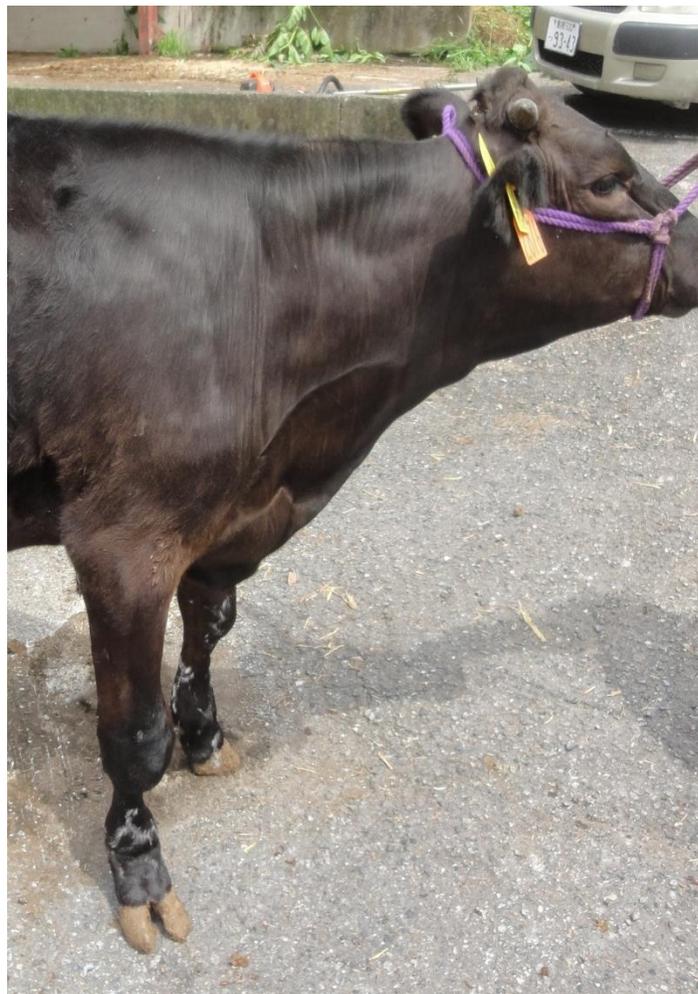
- 右前肢で繋骨-冠骨掌側面から副蹄遠位靭帯を切断する



結果



術前(204日齢)



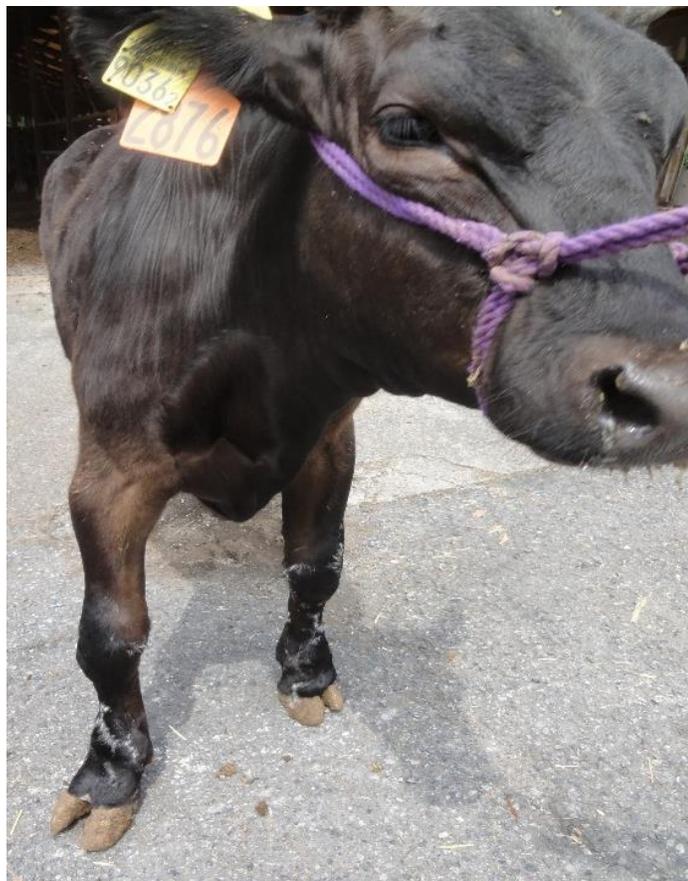
298日齢(術後95日)

- 両前肢の球節伸展
- 右前肢外側蹄の伸展
- 起立姿勢の改善
- 蹄底での負重

結果



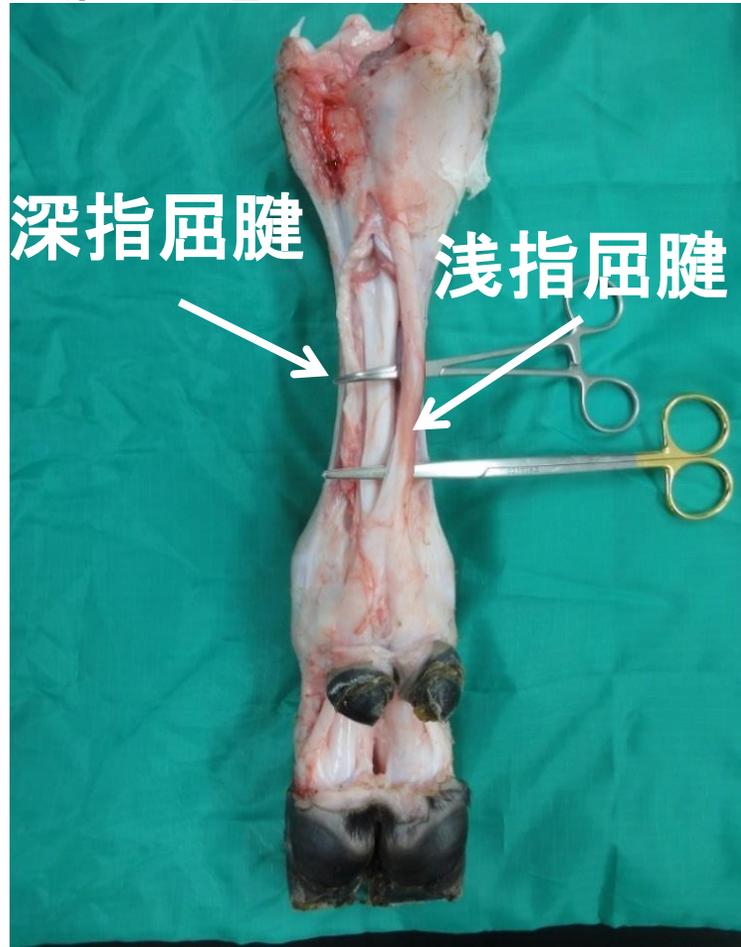
術前(204日齡)



298日齡(術後95日)

考察

今回は**副蹄遠位靭帯**も緊縮した重度の屈腱短縮症により右前肢外側蹄の屈曲を呈していた



考察

今回の症例では浅指屈腱及び深指屈腱のみならず**副蹄遠位靭帯の緊縮**も認められた



副蹄遠位靭帯の切断により外側蹄の屈曲が改善し伸展に至る



通常の内視鏡的切腱術のみでは完治しない重度の屈腱短縮症において**副蹄遠位靭帯の切断は有効**である